

農福連携プラス推進モデル事業における取組事例（香川県・高松市）

農業以外の連携先（プラス）

香川県立農業経営高校、株式会社純緑農業

実施事業所・連携事業所

あじさい / あじさいファーム

事業の応募のきっかけ（地域が抱える課題）

香川県では、平成23年より香川県社会就労センター協議会が農福連携事業における共同受注窓口の役割を全国に先駆けて実施してきた。現在も主にニンニク・玉ねぎ・アスパラガス等の栽培において農家と障害福祉サービス事業所のマッチングに取り組んでおり、そこからステップアップして障害福祉サービス事業所で独自に農業を始める事業所が出てきている。一方で、農福連携に取り組む事業所が増えておらず、農家の高齢化と相まって農業の担い手不足が露呈し、高松市内でも耕作放棄地が増えてきている。また、農福連携の共同受注により農作業を請け負うだけでは、作業単価がさほど高いとは言えず、利用者の工賃向上になかなか結び付いていない状況。

あじさいでは、平成23年度当初、香川県社会就労センター協議会による共同受注窓口の農作業を請負っていた。現在は、さらに収益性を高めるため、安心・安全な商品づくりのコンセプトの下、事業所独自で農業を本格的に実施し始めるとともに、農産物の加工および同事業所が運営する喫茶やレストランでの提供・販売を行っている。今後さらに六次産業化に取り組み、工賃向上に繋げるとともに地元農業や地域の活性化に貢献していきたいと考える。



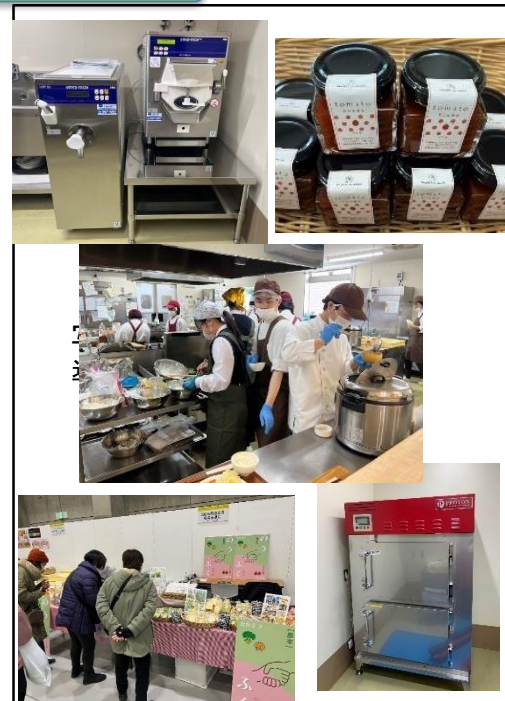
事業内容

本事業の実施によりジェラート製造に必要なパステライザーおよびジェラートフリーザー、スイーツ製造や素材の保存に必要な急速冷凍機を導入。当事業所で栽培したマコモダケを使用したジェラートを開発。

香川県農業経営高校との連携では、ハウス栽培でのいちごの収穫、選果作業、出荷作業を一緒に行った。いちごの他アスパラなどを使ったメニュー（ジェラートなど）を考案し、当事業所のカフェで生徒と利用者が協力して製造・販売した。

株式会社純緑農業との連携では、共同でミニトマトを栽培し、企業の労働力不足の解消に寄与。さらに、ミニトマトを使ったジャムの製造、商品開発を行った。

開発したジェラートやジャムは、岐阜県の農福連携マルシェや、高松市での「たかまつ食と農のフェスタ2025」にて販売したり、幕張メッセで開催された「デリカテッセン・トレードショー2025」にて展示したりなど、販路拡大に取り組んだ。



事業実施後の効果

香川県農業経営高校とのイベント販売実施では、生徒から障害者の方がホールで接客作業をテキパキと行っている様子を見て驚きの声もあり、将来農業を目指す生徒にとって農福連携を考える良い機会となった。また、生徒と一緒に地元農家に農福連携について説明を行う企画を実施し、地元農家に農福連携を知ってもらうことに繋がった。

株式会社純緑農業との連携においても、当事業所が製造している液肥を使用することでミニトマトの収穫量が増えたとの評価を頂いており、今後ジャムなどの加工品を大量に生産できる体制を協同で構築することになった。また、液肥を通して愛媛県の農家の方との新たな連携にも繋がっている。機器導入により、製造の大幅な拡大と安定した素材の確保が行え、それにより販売活動も広がりを見せている。様々なイベントに、農福連携商品を出品・販売することで、多くの来場者の方に農福連携や商品に興味関心を持っていただけ、販路拡大に繋がるとともに、売上アップにより工賃向上が促進された。